

(国) 秋田大学

教育文化学部

教育実践コース

キャリア教養学科 (安積黎明高校出身)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

高校の大学受験に失敗した時です。小学校教員になりたいという自分の夢をあきらめることができなかつたので、高校の担任の先生から提案された編入学の道で、もう一度大学受験に挑戦しようと思いました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期からキャリアデザインで編入志望者向けの授業が本格的に始まります。主に小論文対策や志願理由書の作成、面接練習などを行います。合格した先輩方に相談できる時間もあります。英語に関しては週に2回、編入英語の授業があるのでそこで単語力や長文読解力を高めていきます。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

1年生の後期に先生と面談し、志望大学の試験科目などを調べて取り組み始めました。英語は長文問題を何度も繰り返し解いたり、過去問を先生に添削していただいたりしました。小論文や志願理由書に関しては2年生になってから先生方に添削していただいたのですが、1年生のうちから書き始め添削してもらうことをお勧めします。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

一番努力したことは専門科目の教育学概論の勉強です。短大には、教育学概論を専門的に学べる科目がないため自分で対策をする必要がありました。1年の春休みに教育学についての本を読み始め、ノートに専門用語や重要な言葉をまとめて自分で説明できるようにしていました。2年の夏休み前ぐらいには過去問を2年分解き、問題傾向をつかむようにしました。また教育基本法を覚えたり文部科学省の学習指導要領を読んだり対策をしていました。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

グループディスカッションやプレゼンテーションなどのアクティブラーニングでの学びが力になりました。聖母のほとんどの授業はグループディスカッションが行われます。自分の考えを言葉にする力や相手を説得させる話し方を学ぶことができ、これらの力は編入試験の面接で役に立ちました。今後編入先の大学でも実践できると考えています。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

先生方からいただいたアドバイスはすべて励みになり役に立ちましたが、特に「数をこなした人が合格する」という言葉が編入勉強をする自分を奮起させ、頑張れた要因の一つだったと考えています。他の人よりも多く数をこなすことを意識して小論文作成や英語問題、面接練習を行っていました。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①大学受験に失敗し、気持ちを切り替えられずにいました。

②短大での授業や編入試験の勉強を頑張ろうと思っていました。

③緊張していましたが、今までやってきたことをすべて出し切り、悔いが残らないようにしようと思っていました。

④無事に試験を終えることができよかったという気持ちでした。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

何事も早めに行動することです。最初は何から始めたらいいのかわからないと思いますが、まずは行きたい大学の情報を収集し試験科目などを把握することが重要です。英検やTOEICの点数が必要な大学もあるので早めに確認し取得することをお勧めします。専門科目があった場合は先生や先輩に相談し自主的に学習をしなければなりません。編入対策は2年生から本格的に始める人が多いですが、1年生のうちからやっておいた方が絶対に良いです。自分がやってきたことは必ず力になります。試験当日に頼りになるのは自分です。諦めずに頑張ってください。